

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成24年11月1日(2012.11.1)

【公開番号】特開2012-39534(P2012-39534A)

【公開日】平成24年2月23日(2012.2.23)

【年通号数】公開・登録公報2012-008

【出願番号】特願2010-179970(P2010-179970)

【国際特許分類】

H 0 4 L 12/56 (2006.01)

H 0 4 L 29/14 (2006.01)

【F I】

H 0 4 L 12/56 4 0 0 B

H 0 4 L 13/00 3 1 3

【手続補正書】

【提出日】平成24年9月13日(2012.9.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 9】

また、ユーザは、図 2 に示すように管理用端末 P C 2 を第 2 スイッチ S W 2 に接続して、図 5 に示す監視フレーム折り返し設定用ウィンドウ W 2 を管理用端末 P C 2 に表示させる。図 5 に示すように、設定用ウィンドウ W 2 は、折り返し対象ポートを設定するフィールドと、O K ボタン B 3 とを備えている。折り返し対象ポートとは、監視用フレーム（L H C フレーム）を受信した場合に、L H C フレームの送信元に対して監視応答用フレーム（L H C B フレーム）を送信する処理（フレームを折り返す処理）を実行する対象ポートを意味し、図 5 では、第 1 ポート（ポート P 2 1）が入力されている。ユーザが折り返し対象ポートを入力し O K ボタン B 3 を押すと、入力された折り返し対象ポートが第 2 スイッチ S W 2 に設定される。なお、図 5 に示す監視フレーム折り返し設定用ウィンドウ W 2 は、請求項におけるユーザインタフェースに相当する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 2】

フレーム種別判定部 4 1 b は、レイヤ 2 制御部 2 2 b から通知された宛先 M A C アドレス及び折り返し識別子に基づき、フレーム種別を判定する（ステップ S 2 3 0）。宛先 M A C アドレスが監視用の M A C アドレスであり、折り返し識別子が L H C フレームであることを示す値である場合には、受信フレームは L H C フレームであると判定される（ステップ S 2 4 0）。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 4】

ステップ 3 2 0 が実行された後、図 1 1 に示すように、ポート状態判定部 4 4 b は、受信フレームが通常フレームであるか否かを判定する（ステップ S 4 1 0）。L H C フレームを受信した場合、通常フレームでないと判定され（ステップ S 4 1 0：N O）、この場合、ポート状態判定部 4 4 b は、宛先検索部 4 2 b から通知された折り返し識別子書き換え指示及び出力ポート、又は廃棄指示及び受信ポートを、判定結果生成部 4 6 b に通知する（ステップ S 4 6 0）。前述のように、L H C フレームを受信した場合、折り返し識別子書き換え指示及び出力ポートが宛先検索部 4 2 b から通知されるので、ポート状態判定部 4 4 b は、これら折り返し識別子書き換え指示及び出力ポートを、判定結果生成部 4 6 b に通知する。なお、廃棄指示及び受信ポートは、後述するように、受信フレームが L H C B フレームである場合に通知される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 5】

判定結果生成部 4 6 b は、通知された折り返し識別子書き換え指示及び出力ポート、又は廃棄指示及び受信ポート、又は出力ポート、のいずれかを含む宛先判定結果をレイヤ 2 制御部 2 2 b に通知する（ステップ S 4 7 0）。前述のように、L H C フレームを受信した場合、判定結果生成部 4 6 b は、折り返し識別子書き換え指示及び出力ポート含む宛先判定結果を、レイヤ 2 制御部 2 2 b に通知する。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 1】

